

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 じょうなんプティバ		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 1日		～ 令和8年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 3日		～ 令和8年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児の並行通園先(保育機関)と顔の見える関係づくりができています。	療育時の様子は、できるだけ丁寧にお伝えするように心がけています。また、保育機関での様子もお聞きし、保育園で対応が難しい部分に対し療育でも取り組み園生活につながるような連携も行っています。必要に応じて、保育機関にも訪問、見学を行い助言や情報共有を行っています。	継続して丁寧な対応を心がけ、保育機関と良好な関係を築くことで、利用児が安心して通園・通所できる環境づくりを行っています。
2	日頃から利用児の状況を保護者に伝え、利用児の健康や発達の状況について共通理解ができるようにしています。	利用児の様子は、連絡帳等を活用してお知らせしています。希望時は見学や電話での相談対応も行っています。支援が必要な部分、課題とする部分やのびてきたところは、面談等で共通理解出来るようにしています。	利用児の状況、状態をより丁寧にわかりやすく伝えるようにします。利用児のいいところに目を向けられるようなお話や、ご家族と利用児の関係性、対応方法に助言等ができるよう、職員個々のスキルアップにも努めていきます。
3	利用児の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し支援を行っています。	集団と個別のスケジュールを組み、色々な活動に参加できるようにしています。集団が難しい利用児は個別でも対応しています。活動の継続が難しい利用児には、言葉や絵、イラストで気持ちの表出支援を行ったり、活動への見通しを立てて参加を促したりするなど利用児の気持ちを大事にした支援を心がけています。	言葉や気持ちの表出が難しい利用児の表出方法を関わりの中で模索し、一人ひとりの利用児にあったコミュニケーション手段をすべての職員が行うことができるように努力してまいります。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご家族との面談等を行っています。保護者同士、きょうだい児の交流、研修等を行うことができていません。	並行通園の利用児ということもあり、保護者の就労、保育機関の行事等もあるため、保護者やきょうだい児が集まる時間の確保は難しいと感じています。	信頼できる関係性が築けるように、細かくニーズを聞き取りながら、ご家庭の状況や利用児の様子等を把握し家庭生活を支えるためにいろいろな提案はさせていただきます。
2	各種マニュアルは作成しているが保護者に認識されていない。	契約時や機会でお知らせするようにしていたが周知の方法に不十分さがあると感じています。	契約時等に各種マニュアルを提示して説明する、掲示をする等行っていきます。また、定期的にお知らせし、確認する機会も設けていきたいと考えています。